



ジオコラム

あかいわの大地の成り立ち

⑧ 滝山川の扇状地



2つの川の流れがつくった大地！

赤磐市の北東部（周匝－福田）を流れる吉井川とその支流の滝山川の合流部には、平坦な低地が広がっています。ここは洪水のたびに、滝山川から流れ出た大量の水と土砂によってつくられた土地です。この土地を上空から見ると、滝山川の谷の出口から扇状に開いた形をしていることが分かります。このような地形を扇状地^{せんじょうち}と呼んでいます。扇状地は比較的締まった砂と礫からできていて、その扇端部（吉井川側）は砂が堆積します。水はけの良い土地なので、農地に適しています。



ジオポイント

「自然堤防」

滝山川と吉井川の合流部に広がる扇状地をよく見ると、人工的につくられた堤防沿いに、周囲より50cm～1mほど高く細長い丘のような微地形^{*}が見られます。これは洪水時に川からあふれ出した土砂が堆積してできた土地で、自然堤防と呼ばれています。自然堤防は砂質土でできていて、周囲の低地（農地）に比べて高い場所なので、比較的洪水の被害を受けにくいと言われています。かつて、滝山川と吉井川の自然堤防には桑や竹が生い茂り、わずかに寺社があっただけでしたが、現在はたくさんの住宅が建てられ、居住地として利用されています。

※微地形とは、地質年代の最も新しい時代（完新世）に形成された地表面の微細な凹凸で、人々の生活と密接に関わっている身近なジオの一つです。



もっと知りたくなった人は、地球史研究所の先生に聞いてみよう！

▶ 地球史研究所 ☎956-3538（※外出中で不在のときもあります）

● 問い合わせ先／本庁政策推進課 ☎955-2692